

三菱病院看護科

みて！みて！看護

23号

発行日 2012年11月

編集 看護サービス委員会

今回は、看護師の象徴の一つである白衣（私たちのユニフォーム）について紹介します。看護師の白衣は、時代の流れや医学的側面から数々の変遷を経て現代のような機能的デザインに発展しました。



明治32年～42年頃

白衣の下には冬は黒地
夏は浴衣を着ていました。
履物は草履です。



明治42年～昭和3年頃

詰襟で長いスカート
白衣の下には長襦袢を
着ていました。
白足袋に草履をはいて
いました。



昭和4年～昭和12年頃

長い白衣は不潔と言われ
床上9寸と決められて
いました。
靴が登場しました。

詰襟から開襟となり
折り衿で活動的にひだが少ない
短いスカートです。



昭和16年～昭和20年頃

最近では清潔・機能面を重視し「スクラブ」と呼ばれる
「ごしごし洗う」という意味のカラフルなユニフォームや
動きやすさで、パンツスタイルの白衣・スニーカーなどに
かわってきました。

清潔・機能・安全面からナースキャップが廃止になりました。



当院ではH13年パンツスタイルの白衣が導入されました。
H16年ナースキャップが廃止になりました。
そしてH18年現在のカラフルで自宅でも洗濯できる
ユニフォームが導入されました。
白衣という言葉は今では、ユニフォームと呼ぶことが多く
なりました。

堅苦しくなくて親しみやすい・リラックスして受診できる
患者さんとの距離が近い。動作もしやすい。



昭和20年～昭和40年代

ほぼ現代の白衣の
一般的なスタイルになってきました

白衣の方が看護師さんらしくていい・と仰って
下さる方もいらっしゃいます。
白衣という伝統の重さを心に秘めこれからも
患者さんや家族の皆さんのお役にたてるよう

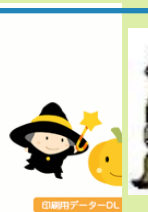
がんばります。



印刷用データDL



印刷用データDL



印刷用データDL

